

2010年11月25日に東京都西麻布の会員制バーにて起こった市川海老蔵暴行事件以来、足掛け3年を経た今も元暴走族関東連合を巡る話題が尽きない。

同年正月には元横綱朝青龍が彼らとかかわるイザコザで引退に追い込まれたのを初め、2011年には港区六本木のキャバクラに来店中の山口組幹部らへの襲撃事件、昨年暮れにもやはり六本木のクラブで金属バットを持った10人ほどのメンバーが飲食店経営者を撲殺、しかもそれは“人違い”だったなどなど。なお実行犯は一部自首した者らを除き、中国、韓国、東南アジア各方面へ逃走したいうから正にヤクザ顔負けであるうえ、芸能界デビューしようとした者がいたり、被害者に著名人がいたりして、いかにもマスコミ受けしそうなこの話にメディアは飛び付き話しがますます膨らんだ。

しかし、もともと関東連合というのは暴走族が全盛期だった70年代に、宇梶剛士ら芸能人を輩出したことでも知られる老舗の「ブラックエンペラー」を中心に約1万人のメンバーが所属した団体で、関西の「日本狂走連盟」などと並んで大規模なものだったものの、今はもうその様なものではなく、せいぜい50人ほどのOBが違法行為をしてるに過ぎない。にもかかわらず、これに対してマスコミは語尾に“OB”とか“解散”、または“元”などの語をくっ付けてまで「関東連合」を引っぱり出し、芸能関係者や“お洒落な六本木”などを抱き合わせた拳句、殆ど“学校の怪談”みたいな都市伝説にしてしまった。

「私は、日の下で行なわれた全てのわざを見たが、何と、全てが空しいことよ。

風を追う様なものだ。」 伝道者の書1章14節

と、神は人の行いの愚かさを嘲笑っているが、同時に私にはここで聖書が示す「風」が世論やメディアに思えてならない。その様なものは単なる幻想であり付和雷同ではなかろうか。今、キリストのあだ名が“真実”であることが胸に響く。

